

平成 27 年度まちづくり懇談会会議録【小笠南地区】

日 時 平成 27 年 12 月 8 日（火） 19：00～20:20
会 場 小笠南地区コミュニティセンター
参加者 61 人

※「今後のまちづくりについて ～人口減少社会への対応～」と題した説明のあと、参加者の皆さまとの懇談（質疑応答）に入りました。

※会場からのご意見・ご質問

「①菊川市まち・ひと・しごと 創生総合戦略」についての所感・ご意見

●河東西・男性

人口減少社会について、ここに書かれているのは理想論で、具体的なものがない。たとえば、「時代を先取る菊川型農業モデルの創出」について、自治会の方で堤防の草刈りは今までは農家の方がボランティアに近い形で行っていたが、今従事者が減り高齢化していく形。そもそもなんで農家さんが堤防の草刈りを行わなければいけないんだと、そもそも公共の土地だから市・県がやるべきではないかという話があったが、結局できないということで、農家さんたちがお金を出し合ってボランティアに近い形で行っている。結局やっていることは農家さんのことを考えているように思えない。明るい農業を目指しましょうと言いながら、この計画ではきれいごとではないか。たとえば草刈りという話に限ってでもいいので返事をいただきたい。

○建設経済部長からの回答

川の草刈りの話がありましたが、河川には国・県・市とそれぞれ管理者がいます。管理者が管理すればいいわけですが、なかなかお金がかかってしまうので昔から地域の皆さんにお願いしてきました。これから人が減ってきたり、草刈りの道具を持っていない方も増えてくると思うので、いつまで協力していただけるのか管理する側としては心配もありますが、できる限り、地域の皆さんにお願いしたいと思っております。人が少なくなれば大変になると思いますので、大変なところは行政がやったり乗用草刈り機を貸し出しすることで地元の皆様に協力していただきたいと考えています。

●河東西・男性

それでは人口減少社会に対して農業対策をあげているが、具体的な対策には結びつかないということか。

○企画財政部長からの回答

総合戦略を作る際に、菊川市の特徴や魅力を知るために市民の皆さんにアンケートを取りました。その中で分かったことは、菊川市の特徴として、乳幼児に対する子育て支援が進んでいること、自然環境が非常に豊かであること、市の面積に占める農地の割合が大きいことです。これを受け、子育て支援に関しては「抜群な子育て環境で家族が幸せに暮らせるまち」、自然環境については「贅沢な自然環境「夢あるしごと」「生きがい」のあるまち」、農業に関しては「時代を先取る菊川型農業モデルの創出」と位置付けさせていただきました。ただ、農業に関しては、農地面積が大きいからというだけでなく、人が生きていくうえで最も基本的な産業であるということで、耕作放棄地が増えている現実もあるが、市として取り組んでいかなければならないと考えている。人口ビジョンについては2060年に36,000人にするのが最終目標。お子さんを持つ女性にアンケートを取った結果、現実の子どもの数と理想の子どもの数の割合が1:1.24だった。女性、母親が望む子供の数を産める環境を作っていけば、現在の出生率1.66が2.06になります。また、若者の流出を30%に抑えれば、2060年に36,000人の人口を維持できると考えています。そのために、まず5年間は、資料の目標に着実に取り組んでいき成果を残したいと考えています。

「②菊川市の公共施設のこれから」についての所感・ご意見

ご意見なし

(閉会：20：20)